

普及センターだより

土 浦



令和8年2月27日 No.51
茨城県県南農林事務所 経営・普及部門
(土浦地域農業改良普及センター)
土浦合同庁舎第2分庁舎3F
土浦市真鍋5-17-26
電話 029-822-7242
FAX 029-822-7370
URL https://www.pref.ibaraki.jp/nourinsuisan/nannorin/keiei/tsuchiura/00_index/index2018.html



調理の様子



食事の様子



献立

土浦地域女性農業士会が鯉淵学園との交流会を開催しました

土浦地域女性農業士会（令和七年度会員八名）は、農学や食品栄養学関連の学生との調理を通じた交流会を毎年行っています。今回は初めて鯉淵学園農業栄養専門学校と交流会を行いました。

食品栄養科の学生が考案し、女性農業士会員が生産したれんこんや有機野菜、卵などを活かしたメニューを共同で調理作業を行った後、全校生徒と教職員を交えた約九〇名との会食および意見交換会を行いました。

女性農業士各会員から、情報発信ツールとしてのSNS活用や、自らの就農体験などを紹介し、学生からの質疑に答えていました。

参加した学生からは「地元の特産品であるれんこんのことを学び、特徴を活かした調理法を研究できる機会になった」「農業が抱える問題や、女性農業士のみなさんが生産・販売の戦略で様々な工夫していることがよくわかった」等の感想がありました。

女性農業士会にとって学生との交流は今後の営農ヒントを得ることにつながり、学生には農業の実際を身近に感じることで、将来食と農に携わるための学習に対するモチベーションを高める有意義な会となりました。今後もこのような企画を継続してまいります。

営農トピックス
einotopics
**健苗育苗で高温に
強いイネづくりを**

登熟期間（出穂期から成熟期）が高温で推移した年産の水稲種子は、例年よりも休眠がやや深い傾向にあります。出芽の遅れやばらつきを防ぐため、こまめに種子の状態を確認しながら、浸種日数や催芽時間を延長しましょう。

浸種日数は通常よりも一日程度長くして十分に行います。水温は一〇〜一五℃が適しています。浸種を延長した上で、例年よりもハ



ト胸状態となるまでに時間がかかる可能性ががあります。こまめに種子の状態を確認し、浸種後二八〜三〇℃で一五〜二〇時間加温し、ハトムネ状態に催芽させてください。ただし、催芽期間の延長は保温中の病害（もみ枯細菌病など）の危険が高まるため注意が必要です。そのためにも、十分な浸種を行いましょう。

高密度播種育苗ではムレ苗や老化苗が発生しやすくなります。温度管理や育苗日数に注意してください。近年の気温にあわせて育苗計画の作成が重要となります。

営農トピックス
einotopics
**斑点米カメムシ
類防除の徹底に
ついて**

斑点米カメムシ類が水稲の穂を吸汁加害することで減収や等級低下を招きます。なかでも、近年はイネカメムシの発生が増加傾向にあります（写真）。イネカメムシは出穂直後の穂を好むため、集中的に加害を受けると著しい不稔が発生し、大幅な減収に繋がります。そのため、①出穂期※頃【不稔防止】および②出穂期八日後【斑点米軽減】の二回の薬剤防除が効果的です。また、その他の斑点米カメムシ類の水田内への飛来を防ぐた



イネカメムシ

め、出穂二週間前までの水田周辺の除草も重要です。※出穂期…ほ場全体の四〜五割の穂が出た日

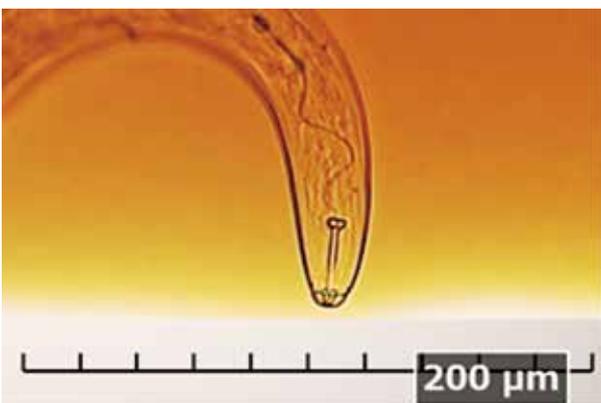
営農トピックス
einotopics
**定植前のレンコ
ン黒皮症対策**

黒皮症はレンコンネモグリセンチュウを主因として複数の原因によって発生するので、対策は農薬による防除だけに頼らず、複合的に取り組むことが重要です。対策の詳細はインターネットにて公開しているので、「はすだね通信」で検索してください。

○健全な種ハスの利用
センチュウはれんこんの根に多く生息し、その数は土の数百

倍です。センチュウに汚染されていない種ハスを利用することが重要です。○土（ほ場）のセンチュウ防除
農薬を使用しても直ちに黒皮症の改善が感じられない場合もあります。センチュウ密度は低下するので、継続して防除してください。

○適正施肥と堆肥による土づくり
黒皮症は多リン酸で発生が助長されるとの報告が有ることから、土壌診断を行い適正な量を施肥してください。また堆肥の施用は、黒点原因物質の生産を妨げたり、センチュウを減らす微生物が含まれ有効です。



センチュウの口針



炭疽病による葉の黒点病斑

令和七年は前年に引き続き、「豊水」や「恵水」、「新高」で炭疽病の発生が見られ、収穫時期に早期落葉が見られました。黒星病は近年、収穫時の被害は少ない傾向にあります。令和七年五月には低温・多雨により、感染が散見されました。炭疽病及び黒星病は多発すると防除が困難なため、発生初期からの防除の徹底と耕種的防除を組み合わせて対応します。罹病した落葉は翌年の伝染源となるため、ほ場外に持ち出さず、土壌へのすき込み、草刈機による粉砕を実施してください。

営農トピックス

 ナシ炭疽病及び黒星病の耕種的防除



遮熱材を塗布したハウス

施設園芸の高温対策は、①「換気（外気導入）」、②「遮光・遮熱」、③「冷却」を組合せることが重要です。それらの適切な導入には、ハウス内環境（気温、光合成有効放射（≡植物が光合成で利用できる波長の光）、絶対湿度等）の見える化が必要となります。適切な対策技術の導入で、植物にとって快適な生育環境を整えましょう。過剰な遮光は、光量不足を招き、収量、品質の低下、株疲れの発生につながります。遮光資材の導入に当たっては、栽培する品目の品質が一番良い

営農トピックス

 施設園芸の高温対策について

令和七年三月に管内の花きの後継者や若手農家七名が新たな後継者組織「ぷらぷらプランツ」を結成しました。管内は、県内でも有数の花き産地ですが、担い手の減少などの課題があります。そこで、管内に点在する花きの若手農家が、同世代の農家、地域の先輩農家とつながりを深め、自身の経営管理や栽培技術を向上する機会を増やすことを目的に本組織は結成されました。今年度は会員間の交流を深めるため、会員の経営紹介を中心に活動しました。自身の経営内容や今年度取り組んでいる試験

（≡収穫物の重量が確保できる）ときの光合成有効放射を再現できる遮熱・遮光資材の選定が必要です。併せて、施設内の空気を一時間に四回以上入れ替えるように外気を導入することで、施設内の温度を外気並みに下げることができます。これらの相乗効果で、植物の光合成が促進され、蒸散によって植物体の温度を低下させることができます。対策の詳細は当部門までお問合せください。

営農トピックス

 花きの後継者組織「ぷらぷらプランツ」が結成されました

茨城県内では年間約二〇〇件の農作業事故が発生しています。事故のうち、約四六％は農業機械を使用する時に発生しています。事故の多い機械は、トラク

営農トピックス

 農作業安全に努めましょう



ぷらぷらプランツの皆様

等について各会員から説明を行い、参加者間で積極的に質問、情報交換が行われました。貴重な花きの若手農家が名実ともに将来の土浦地域の花き経営者のリーダーとして活躍できるよう、当部門は支援を継続していきます。

ター(一一%)、刈払機(七%)、耕うん機(四%)、コンバイン(四%)です。

トラクターによる事故は、転倒・転落や、機体との接触・巻き込まれにより発生します。事故を防ぐため、路上走行ではブレーキペダルを連結する、スピードを抑える、作業を中断する時にはエンジンを止める事が大事です。機械だけではなく、疲労、幅の狭い道や急カーブ、雨や高温等の天候も事故の原因になります。作業にゆとりをもち、危険な道は避けましょう。転倒・転落が起こってしまった場合でも、安全キャビネット、シートベルト、ヘルメット等の安全装置があれば、重傷化を防ぐことができます。作業に行く時には家族や従業員に行き先を告げ、緊急連絡用に携帯を持ちます。

また、「ひやっとした、まずいな」と感じた体験があれば、ぜひご家族や近所の方、同僚や従業員にお話ししてください。小さな危険への対策は、重大事故の防止につながっています。

参考：農作業安全の手引き(令和六年六月、茨城県農林水産部産地振興課 作成)



土浦市

土浦ブランドをご紹介します

土浦市で生産される農林水産物及び加工品で、土浦の恵みとして人を結びつけ、まちの賑わいへとつなげていくものを「土浦ブランド」と認定し、多くの方に好評をいただいております。現在四三品目が認定されている「土浦ブランド」からお気に入りを見つけてください。認定品の詳細及びPR動画は、土浦市HPや添付のQRコードからご覧ください。



認定品紹介
QRコード



PR動画
QRコード

石岡市

「朝日里山ファーム」令和九年度 研修生募集

石岡市柴内の朝日里山ファームは、国の新規就農者研修制度に基づいた研修施設です。本施設は、農業で独立を目指す青年の研修農場で、体験型観光施設「朝日里山学校」周辺の耕作放棄地を再生し、「有機野菜コース」の他「いちごコース」・「ぶどうコース」を併設しています。

研修生となる資格・条件は、市内に居住すること、年齢が四五歳まで、研修終了後は市内で就農すること等です。研修は二年間で毎年一組ずつ受け入れています。詳しい相談は朝日里山ファーム(電話：〇二九九一五一三一一七)または石岡市新規就農者支援センター(石岡市農政課 電話：〇二九九一四三一一一一)へお問い合わせください。



朝日里山学校

かすみがうら市

環境に配慮した「有機農業」を 推進しています！

かすみがうら市では環境に配慮した有機農業の取組を推進しております。生産された有機農産物の学校給食活用による出口戦略や有機JAS認証取得支援などの仕組みも構築しています。

市内で有機農業に取り組んでくれる生産者を募集しておりますので、興味関心がある方はかすみがうら市農林水産課(電話：〇二九九一八八六一三三〇五)までお問い合わせください。



有機農業